

福祉文化通信

～well-beingへの道～

2010.7.30
vol. 64

●編集委員
遠藤 美貴 稲田 泰紀 河西 正博
●デザイン・印刷/飛来社

日本福祉文化学会事務局 〒165-0026 東京都中野区新井 2-12-10 芸術教育研究所内 Tel/Fax: 03-5942-8510 E-mail: fukushibunkabito@nifty.com

新理事紹介



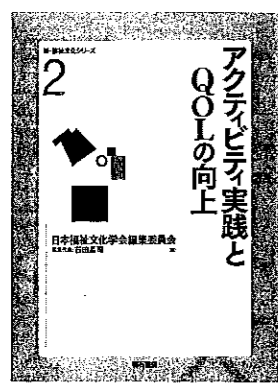
日本福祉文化学会 会員のみなさんへ

理事からのメッセージ② 石田易司

くという生き方が、まさに福祉文化的だと思っています。

昨年、他に行く人がなかったた東アジア社会保障会議で、日本の福祉文化について報告をしました。面白かったのは、その人民大学の構内で、昼食に行った学生食堂と会場の間のほんの2、3メートルの間で、偶然中国人の知り合いに会ったことです。会議の内容より、こんなことがとても面白く思える生き方をしています。

これも行きがかりで、新・福祉文化シリーズ2巻「アクティビティ実践とQOLの向上」の編集を引き受けてしまいました。



これまで学会誌や実践報告集に発表していただいた方の中から、このテーマに合いそうな人に闇雲にメールを送って執筆を依頼したのですが、20人の方が快く応じてくださいました。全国にはとてもいい実践や研究をしている方がおられるもんだと、編集をしながら、勉強をさせていただきました。私のこの本の狙いは、その実践や研究を本場に広めるためには、組織やネットワーク作りが必要ということ。自分の世界に閉じこもった実践や研究は役に立たないと思っています。

そして、来年の学会大会を勤務校の桃山学院大学で開くことも、流れの中で引き受けてしまいました。た。ついこの間京都でやったばかりなのに、また、関西ですることになり抵抗はあったのですが、誰も引き受けないのなら、「じゃー」と、押し付けられた依頼に抵抗することもなく引き受けました。

今、たくさんの関西ブロックの

仲間と、それ以外の地域の福祉関係者と、企画を練っています。大阪らしさやこの学会のよさをどういう形で出すのかがいいかということ。パーティーはお好み焼き、たこ焼き、うどんの粉物(こなもん)一色でしようとか、皆さんに楽しんでもらうのは上方落語とか、おおよそ研究とは関係のないところで盛り上がっていますが...

「楽しくなければ、文化じゃない」という発想です。楽しさの中から主体性や自発性が生まれてきます。押し付けられた活動でなく、自分たちのしたいことで社会にいい影響のある活動をどう展開するのかという事です。そんな大阪大会が今から楽しみです。「1年前だから楽しくて、直前になると大変さで首が回らなくなるよ」と心配してくれる人がいますが、テーマは福祉文化とボランティア。やはり、主体性が中心です。

先日、学生時代どうしようもなかった教え子が、某大学の教員として採用されました。とてもうれしくて、いろんな人に吹聴していたら、「お前も大学4年で卒業できなかったじゃないか」と言われました。自分でやる気になるまで、待っていて育んでくださった方に感謝しながら、この教え子のこれからの成長を楽しみにしています。

こんな私です。

日本福祉文化学会 第12回 中国・四国ブロック大会について

大会テーマ

（「人と人のつながりから生まれる福祉文化の創造」）
—しょうがいを持つ人の生活の場における実践活動—

大会趣旨

福祉は支援を求める人と提供する人という関係だけではなく、一人ひとりの人との関係性から創造されるものも多くあります。すべての人々が、地域で共に暮らすことから、お互いが一人ひとりを分かり合い尊重され、人と人との関係が育まれます。このようにして創造された一つの福祉実践が、その地域に普遍的に広がることで、地域の福祉文化として根付いていくことが期待されます。

今回の大会では、当事者のもつ力を十分に発揮し、一人ひとりが活き活きと自立して豊かに生きるための福祉の創造を目指して、住民と「共生」する地域において、当事者の生活に密着した支援の「現場」から福祉の実践活動を学び、改めて福祉文化について考えていきたいと思います。

日時: 2011年1月23日(日) 9:30～16:00

会場: 徳島文理大学 徳島キャンパス

主催: 日本福祉文化学会中国・四国ブロック

プログラム:

- 基調講演/テーマ「しょうがいを持つ人々への新たな取り組みの理念と評価
—ADLからQOL, cure・careからcreation, paternalismからempowerment—」
徳島文理大学保健福祉学部理学療法学科長 小嶋裕先生
- 分科会/第1分科会「しょうがいを持つ人の働くことを考える」
第2分科会「しょうがいを持つ人の生活と暮らしを考える」
- 自由研究発表/ポスターセッション

参加費:

- 一般・会員/1,000円(事前申込)、1,500円(当日参加)
- 学生/無料(当日受付にて学生証をご提示ください)
- アテンダント(介助者)/無料

参加申し込み先:

- 郵便局の払込取扱票(青い枠線)により、参加費を振り込んでください。
- 口座記号番号: 01640-8-45088
- 加入者名: 日本福祉文化学会第12回中国四国大会
- 備考欄に氏名、参加者の種別(学生・会員・一般)をお書きください。
- しょうがいのある方で、当日アテンダントのボランティアを希望される方は、しょうがいの種別と「アテンダント希望」とお書きください。

参加申し込み締め切り:

2011年1月10日

自由研究発表の応募:

往復はがき裏面に、演題名・所属・氏名を記載して、事務局まで申し込んでください。

研究発表応募締め切り:

2010年12月15日

事務局(問い合わせ先):

徳島文理大学 保健福祉学部看護学科 川田美由紀
TEL: 088-602-8154(直通) e-mail: mikawata@tokushima.bunri-u.ac.jp

ブロックからの 会員紹介

関東ブロック 大江緑さん

はじめまして

学会員となって、まだ2年弱。研究者でも実践者でもなく全く畑違いの仕事をしています。が、「福祉文化」とは何かを知りたくなって学会員となりました。

昨年の「福祉文化とは何かを考える研究会」における、津曲先生と永山先生のセミナーにも参加させていただきました。

先日の東京大会では、実行委員募集に手を上げてはみたものの、当日の設営をお手伝いするつもりでしたので、事前の会議では周りの方々のおっしゃることを聞くことで精一杯。とにかく毎回出席して、何かを掴まなくては...と思って1年を過ごしました。

当日は、学会員の方々のご著書を紹介するコーナーのお手伝いをさせていただきました。多くの方々にご協力をいただき、また、慣れないため、たくさんのご迷惑をおかけしました。その節は大変ありがとうございました。

いました。

「福祉」そして「福祉文化」との出会い

こんな「福祉文化」初心者ですが、ご推薦くださった編集委員さんの熱意に負け、素人ならではの思いを書かせていただくことにしました。

「福祉」という言葉自体は、父が区役所の福祉課に勤めていたため、かなり小さな頃から耳に入っていました。しかし、単語としては知っていても、福祉の「本当の意味」は未だにわかっていないように思います。

大学は、思うところもあり建築工学科を卒業しました。4年の時に、使いやすさとはどんなことを考える(と私は思った)「人間工学」に興味を持ち、他学科の授業を受けました。サークル三昧だった学生生活でしたが、学んでみたいと強く思ったのです。なぜ建築工学科にこの課目がないのか不思議でした。

「アフリー」と言われていることが多いような気がしますが、違和感があります。

転職の度に知り合いが増え、親戚や両親が高齢者となり、以前は気づかなかったいろいろな「不便」が見えてきました。段差がないことやスロープしかないことが、不便な場合もあると知ったからです。

「福祉には近いが、文化ではない」かも知れませんが、一方からだけでなく多方面から考え、それぞれの「アフリー」「ユニバーサルデザイン」とは何かを見つけて出してみたいと思っています。学会との貴重な出会いを大切に、これを実現したいと思っています。今後とも何卒よろしくお願いいたします。

日本福祉文化学会 第20回全国大会

東京大会報告

インタビュー 長淵理事

2010年2月27・28日に日本福祉文化学会第20回全国大会が早稲田大学国際会議場にて開催された。本大会では、準備段階から当日の運営まで、多くの若手のボランティアにも協力いただいた。

今回は、この大会にかかわってくださった3名のボランティアの方にインタビューを行った。

皆川毅氏(看護師、30歳)

山下奈津子氏(作業療法士、23歳)
鶴海咲氏(音楽学校学生、18歳)

長淵 まずは本学会に初めて参加してみた印象は?

皆川 異業種が知り合える、たいへん良い機会だった。

山下 確かに。もともと医療職も多くくればいいのに、もったいないなあ。

長淵 どういった人と知り合えた点が良かったか?

皆川 やはり普段接点がない大学教員や施設長、音楽家、学生と話せた点。

長淵 大会の運営面で印象に残ったのは?

鶴海 音響や照明など丁寧に取りハアサルしていて勉強になった。

長淵 見せ方など細かく準備をしたので、裏方のおもしろさがあったかと。

鶴海 あと、アカベラの「CAPPELLATE」の衣装が素敵に見えた。

山下 運営面ではボランティアへの対応が親切だったのも良かった。

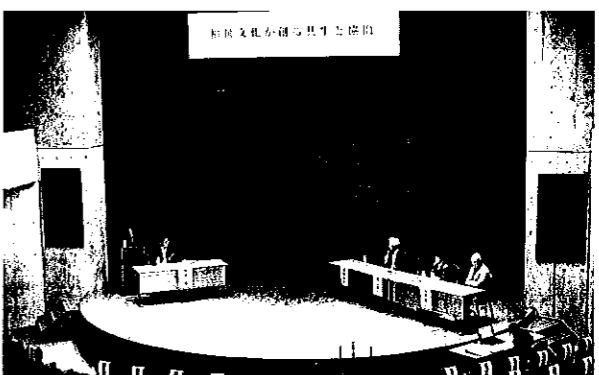
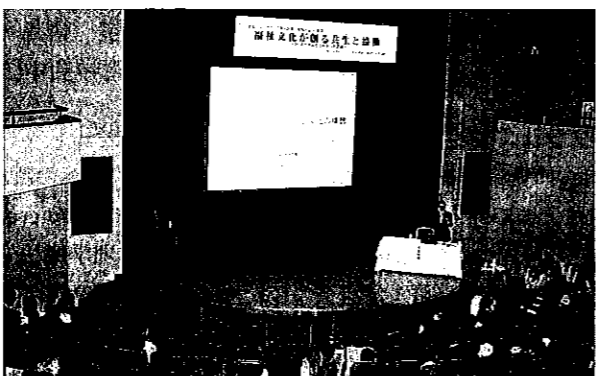
長淵 これがかきつけで参加の輪が広がってほしいかな。

皆川 参加してみても、学会のことも福祉文化のことも知ることができ良かった。

皆川 地域性も交えつつ、より豊かな暮らしをどう支援するか学びたい。

鶴海 癒し系の音楽があれば、また聴いたり、裏方をしたい。

山下 子どもの遊び場など、子どもが参加できる機会もあると良い。



2010年度日本福祉文化学会事業報告・事業計画

2010年(上半期)事業報告

- 広報委員会
 - ・学会ホームページの充実
 - ・福祉文化通信第64号(7月)発行
 - ・メルマガの発行
- 事務局
 - 事務局会議の開催
 - 3月8日、4月15日、5月20

日、6月24日と毎月1回のペースで事務局会議を開催

2010年度事業計画

- 〈各地方ブロック活動〉
- 東北ブロック
 - ・11月頃に東北ブロック研修会を検討中

中国・四国ブロック日本福祉文化学会

- 中国・四国ブロック日本福祉文化学会
 - ・第12回中国・四国ブロック大会実施の計画
 - (詳細は裏面の「日本福祉文化学会 第12回 中国・四国ブロック大会」について参照)

〈各種委員会活動〉

- 企画委員会
 - ・昨年度に引き続き、学会大会での①「地域文化の福祉的実践」と②「実践と研究の融合」の2セッションの企画運営
- 広報委員会
 - ・学会ホームページの充実

〈出版・刊行〉

- ・福祉文化通信第65号(2月)発行
- ・メルマガの発行
- ・福祉文化シリーズ 第3巻「地域をつくる福祉文化」(日本福祉文化学会編集委員会、2010年11月刊行予定)